



度会町議会だより

広報委員
 委員長 長谷川 多一
 副委員長 大西 徹
 委員 舟瀬 勝
 若宮 淳也
 貞森 義和
 大野 原徳

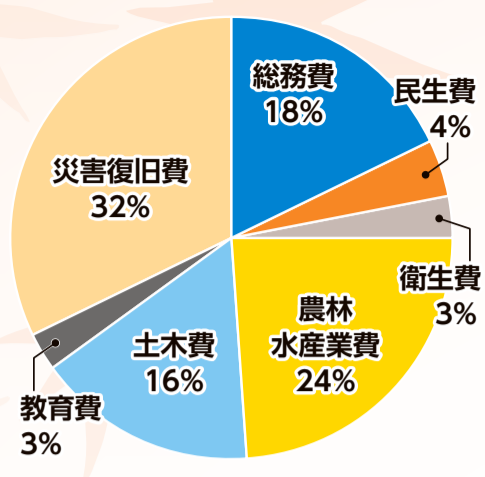


令和4年 第3回定例会 令和4年9月6日～9月15日(10日間)

この度の定例会では、令和4年度の一般会計補正予算第3号により、約2億3千3百万円を追加し、一般会計約45億6千8百万円が上程され、審議の結果議決いたしました。また、令和3年度の決算についても審議を行い、認定いたしました。

補正予算第3号の概要

補正予算 (2億3千3百万円)



費用別主な内容

◆総務費 (4千4百30万円)

- ・デジタル田園都市国家構想事業負担金

◆農林水産業費 (5千9百万円)

- ・肥料価格高騰対策事業補助金
- ・林道五里山線舗装工事
- ・林道注連指西線橋梁改良工事

◆土木費 (3千7百70万円)

- ・町道 危険木伐採業務委託料
- ・西谷川 他維持補修工事
- ・遊水プール鏡取水ポンプ更新

◆災害復旧費 (7千8百万円)

- ・五里山川災害復旧工事 他

以上が費用別の主な事業内容です。

一般質問

長谷川 多一 議員



○資源ごみの現状(取扱量、処理方法等)について

1. 現時点での排出状況は？種類別に排出量はいかほどか？
2. リサイクルステーションに出される資源ごみの見通しは？
3. 現状出されたごみは、どこで・どのように処理しているのか？

町長答弁

新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用した度会町リサイクルステーション新設工事は、年内完成を目途に取り組んでおります。設置場所につきましては、町民の利便性を考慮した、内城田、中川、小川郷、一之瀬地区の各1箇所と、内城田大橋右岸側の三叉路を加えた5箇所を進めております。



建設水道課長答弁

町内における資源ごみは、令和3年度に約317

tが一般家庭から排出されました。古紙約113t、ビン約56t、プラスチック製容器包装類約43tとなっております。10年前と比べると約100t以上も増加しているということが現実です。資源ごみの処理方法は、プラスチック、ペットボトル、ビン及び小型家電製品については、伊勢広域環境組合リサイクルプラザに搬出しており、また缶、古紙類及び古布類については民間事業者へ売却しています。

○プラスチック新法への対応について

1. 町民に対する分別基準の周知徹底は？複雑化する分別を行っていただくことによる成果を見える化し、積極的に協力していただくための施策は？
2. 市町村は分別収集とともに再商品化を担うことになっているが、町としての方針は？

町長答弁

現在、ごみ収集日程カレンダー、ごみ分別アプリ、町広報紙等で周知を行っております。さらに、子どもから大人まで、多くの方に分別への理解を深めていただくため、分かりやすいポスターやチラシを作成し、周知するとともに、児童・生徒を対象とした分別教室の実施を検討しております。また、町内で回収し伊勢広域環境組合へ搬出された資源ごみは、のちに、衣類や農業用資材、トイレトーパーなど、身近なものに再商品化され、資源の循環が図られております。自分たちが出したごみの流れが「見える化」されることは、分別への協力意識を高める重要な手立てであることから、排出される資源ごみの量と再商品化に必要な量を分析し、町独自あるいは市町が連携して再商品化が実現できるようにであれば、実行にうつりたいと考えています。



若宮 淳也 議員

○文化ホール等の必要性と寄贈された土地の利活用について

各自治区に公民館があつて自主的な活動やイベントが行われています。一方、自治区の規模を超えるような取り組みを行うべく、くうえで文化ホールなどの活動拠点が必要ではないか伺います。先般、町民の方から寄贈いただいた土地をどのように利活用していくのか。

町長答弁

文化ホール等の整備につきましては、過去にも議員の方や町民の皆様からご質問やご意見をいただいておりますが、現時点での文化ホールの新設に限って申し上げますと、早急に推進していく状況ではないとの認識をもっております。その理由としては、建設に係る財政上の負担や国等の補助制度が整っていないことなど、財源的な調整課題に加え、福祉、防災、教育などにおける山積する政策課題とのバランスを考慮しますと、直ちに建設に踏み込むことは難しいとの考えでおります。なお、現在の活動拠点として利活用されております中央公民館等の既存施設につきましては、場所はまだまだご検討中でございますが、老朽化しておりますので、改修ではなく建て替えを検討しています。また、先日寄贈されました土地の利活用につきましては、6月定例町議会においてのご質問でお答えしましたとおり、様々な角度から町の発展につながる活用方法を検討してまいりたいと思っております。



○新型コロナウイルス感染症への支援体制の強化について

コロナウイルスに感染した方たちは、何が必要で

各家庭で何をしたらいいのかわからない状態に陥ることがあるとお聞きします。それらに対し町からどのような支援が受けられるのか、どのように町に相談すればいいのか、周知すべきと考えます。これまで以上に支援体制を強化し、対策チームを作って町民と連携をとる必要があると考えますが、お考えをお伺いします。

町長答弁

新型コロナウイルス感染者への支援ですが、まず、町での食糧支援については、保健所から陽性者等が度会町の担当課へ直接連絡するよう伝えていただいております。8月末時点で39件というところでございます。町民への周知の方法につきましては、町ホームページ等での情報提供など強化いたしました。なお、ご承知のとおり、先週の7日より、ウィズコロナの新たな段階への移行を見据え、陽性者であっても、有症状の場合で症状軽快から24時間経過後、あるいはその他無症状の場合や濃厚接触者は、食料品等の生活に必要な最低限の買い出し等は、なるべく混雑する時間帯を避け、感染対策を徹底することで、短時間であれば認められるなど、外出自粛についての見直しがなされたところであります。

感染者家族への支援体制の構築ということで、対策チームを作ってはどうか...というご意見については、ご承知のとおり、町では、令和2年度に感染症対策の推進などを所掌事務とする「対策本部」を立ち上げるとともに、関係課による「プロジェクトチーム」を設置し、各課の役割分担と連携のもと取り組んでおりますが、さらなる組織の強化を図りながら、対応してまいります。



貞森 義和 議員

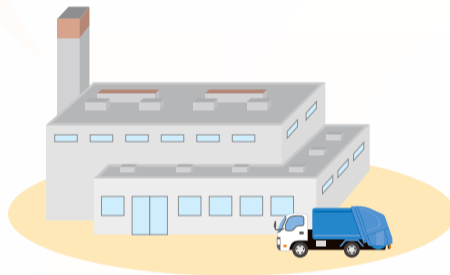


○新ごみ処理施設の建設計画案について

現在、計画中のごみの燃焼により発電する、ごみ焼却施設の建設案は2050年実現に向けた政府の将来展望であるカーボンニュートラルと合致しておらず、解体を余儀なくされるような施設の建設をしてもよいものか。

町長答弁

ごみ処理施設整備は、ごみ処理施設整備基本計画が、令和3年11月に策定され、ごみ処理施設整備・運営事業の事業者を選定する段階に入りました。令和4年2月2日に開催された伊勢広域環境組合議会定例会では、総合評価審査委員会の運営支援を含む発注者支援業務委託費を計上した令和



町内の近況報告

度会町議会のペーパーレス化に向けた議員研修を実施しました

当町議会もペーパーレス化により、議事のスムーズな進行に加え、資源の無駄遣いをなくす目的から、タブレットを活用した議会運営に取り組みこととし、それに必要な研修を随時行っております。



議員によるタブレット研修風景

4年度伊勢広域環境組合会計予算を組合議会で可決いただいております。全員協議会での報告を経て、4月27日、伊勢市西豊浜町上区自治会と協定書及び覚書を締結、8月20日には、管理者・副管理者全員が上区定期総会に出向き、ごみ処理施設整備に対する協力への感謝の言葉を述べました。このように、すべては、管理者会で協議し、組合議会へ提案・承認を得たうえで、執行している事務事業であります。提案者・副管理者である私が、後から方針を変えることは、適当ではないと考えております。

○難聴者による補聴器購入の際の補助金について

難聴による認知症の発症確率が高いといわれるなか、難聴者の補聴器購入の際の補助金に対する考えを尋ねる。

町長答弁

まず、「難聴による認知症の発症確率が高いと

いわれる中、難聴者の補聴器購入の際の補助金に対する考え方についてのご質問ですが、「認知機能の低下や認知症のリスクを減らすために補聴器の使用を推奨する」といったことについては、WHOのガイドラインにより「十分なエビデンスがない」との結論付けがなされております。このような要因もあつてか、三重県や近隣市町におきましても補助制度の構築がされていない現状にあります。進みゆく高齢化社会に対する課題と捉え、今後も動向を注視しながら、研究を重ねてまいりたいと考えております。

なお、聴覚障害により身体障害者手帳を有する方や障害者総合支援法の対象疾病に該当する難病患者の方に対しては、補聴器購入に対する補助制度があります。



宮リバー度会ソーラーパークの現状報告

宮リバー度会ソーラーパークでは、発電用パネルの設置が完了し、現在では来年5月の竣工に向けて、設備の試験調整など様々な付帯作業を行っています。いよいよ、本格的な発電が開始される段階になってきているようです。



宮リバー度会ソーラーパーク発電所

宮リバー度会ソーラーパーク全景